

事業名「小規模校区から発信！！ 一人ひとりが活かされるネットワークづくり事業」の構想

※小規模校区のことは薩摩川内市（全体）のこと、（小規模校区で）生活する一人ひとりが活かされて暮らすことができるネットワークを構築する。

教育文化分科会（４－２班） 江藤、川路、坂元、新満、西、藤本

私たちのグループでは、小規模校区で暮らす人々の生活の現状についての意見がたくさん出ました。その意見を集約し、「そこに住む人 一人ひとりが活かされる」ことで小規模校区の活性化を目指して、私たちの調査・研究のテーマは「小規模校区を活性化して盛り立てる」としました。

現状として把握されたこと テーマについて収集した情報を基にした【現状把握】→【重点課題の抽出】の過程で、私たちは、小規模校区に暮らす人々が、小さな地域コミュニティの中で生き生きと暮らすためには、全市または全国的課題とは別の小規模校区が抱える特有の困り事の解決に向けて、特有の行事や文化等小規模校区ならではの特色を活かした取り組みが必要であるという認識を得ました。小規模校区における行事や文化は、 ○地域の伝承文化を引き継ぐ人材が減少している。（子どもたちが減少していくなか、伝承文化を引き継いでいけるのか不安。） ○行事やイベント等の情報や他地域の情報を得にくい。等の現状にあります。地域の行事や文化は生涯学習と関わりが深く、生涯学習は地域の人の暮らしの豊かさを支えるものです。しかし、小規模校区の生涯学習等地域におけるく学習＞サービスについては、地域での学習サービスを受けるためには、人数（５人以上）の壁があり、小規模校区においては、学びたくても学べないということもあります。また、小規模校区は、子どもが少なく高齢者が多いという現状です。高齢者は経験が豊かな人や知恵や技術等を持っている人が多く、高齢者を「人材」として活かすことは、自治会や地区コミュニティ協議会における活動の中で校区の活性化を図る方策として重要です。

課題として抽出されたこと

以上のような問題意識を踏まえて、私たちは、私たちの考える「小規模校区の活性化」とは、 ○そこに生活する一人ひとりが活かされて暮らすことができる地域の姿であることを目指して、そのための方策として、小規模校区のことは薩摩川内市全体のことという考え方を柱とする地域づくり事業を構想しました。この事業の「ネットワークづくり」とは、 ○生涯学習等、学習に関する情報を共有できる仕組みづくり（少人数でも「いつでも、どこでも、だれでも」学べる仕組みづくり） ○地元のみならず、全市的に伝承文化を守っていく仕組みづくり（地元の文化としてだけでなく、市全体の文化として捉え守っていく仕組みづくり） ○自治会や地区コミュニティ協議会同士が交流する仕組みづくり（市内の４８地区コミュニティ協議会や各地区がエリア（地縁）を超えて世代間交流を行う仕組みづくり）を想定しています。具体的には

- ①市全体のイベントや行事、生涯学習等の情報を一箇所でまとめ、交流するネットワークを創出する。このことでどんな時期にどんな行事があるのかがわかるので全市の様子が把握できる。
- ②①を踏まえて、各地域にある文化や農産物、加工品などの販売イベントを、小規模校区で開催し、交流できるイベントを開催する「しかけ」を創出する。ここでは同じような行事があればまとめるなどして精選していくこともできる。
- ③生涯学習やイベントの中で過不足や応援（人の、物事の）をし、市全体で交流する。 ④廃校の利用や発掘した文化等で観光ツアー（日帰り）などができるようにしたい。
- 市全体で人の交流をしながら文化の伝承やいきいきと暮らす一人ひとりの地域に暮らす人をイメージしながらしかけを創出する。

この構想の付加価値

- 小規模校区が主体となって運営することによって、人や物が動き、小規模校区の活性化につながる。
- 各地域で伝承することが止まっていた文化が復活することができる。
- 情報が１局に集約（一元化）できるとこで人の過不足の調整や相談等がしやすくなる。
- これまで各地域や地区でしか行われてこなかった伝承文化や行事等を知ることができる。さらに応援したい方々によって復活することができる。
- イベント情報を得ることができなかった興味のある人が参加し交流することができる。
- 人数の壁によって学びたくても学べなかった人が学ぶことができる。
- 各地域でしか活動できていなかった人が、広く他地域の活動にも関わることができ交流の輪が広がる。
- 交流が生まれ、一人ひとりが活躍する場が創出されることが期待できる。
- 地域で活動していた人が他地域でも活躍の場を見出すことができる。
- イベントの開催によって地域の人々、一人ひとりが関わることができる。
- 伝承文化やモノづくりなどの得意な人材が活かされる。
- 廃校を利用し、その地域の地域資源として運用・活用できる可能性が生まれる。

この構想によって利害が及ぶ人

- 小規模校区に暮らしている人
- 小規模校区の活性化を応援したい人
- 地域の文化に関心のある人
- 各地域イベントや行事の情報を発信したい人
- 各地域イベントや行事の情報を入手したい人
- 地域を超えて多様な人との交流を求めている人
- 地区を超えて生涯学習で学びたい人
- 行事やイベントの実施に際して備品や人等の限界を抱えている地域・人

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・情報収集活動・実際に行なわれている行事に出掛けて実体験する。
- ・人手の少ない祭りや伝承文化について協力の呼びかけをする箇所が次第に増えている。
- ・これらの出会いから別のような交流が期待される。
- ・祭りや伝承文化だけを集めたイベント等 薩摩川内市らしいオリジナリティーのあるイベントが開催できている。
- ・人や物を結ぶ 活動の場が増え 一人ひとりがいきいきと活動している。
- ・日帰り観光ツアーの実施。

中期的（１～２年程度）経営計画

- ・情報収集活動・実際に行なわれている行事に出掛けて実体験する。
- ・青年会議所や自治会等関係機関との交流会をする。・人手の少ない祭りや伝承文化について協力の呼びかけ、運営をする。
- ・市全体の様子を把握し、イベントなどのバランスを研究する。
- ・イベントを企画しながら、お祭りや地域にある食べ物等で食文化の交流を中心とした、「おもてなし」をする。
- ・軽トラックなども利用したフリーマーケットの開催により資金を集める。

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・事業説明会を実施し中心メンバー、ボランティアを募る。
- ・生涯学習や伝承文化や祭り、イベントなどの情報を全市の分を集約する。
- ・小規模校区を応援したい人、してほしい地域を募集し、応援する体制をつくる。(情報発信)
- ・各地域で活動をされている方々との交流会をする。(主に困りごとを聞き取る)

実現のための制約要因

○場所の確保

実現のための制約要因

○資金調達

獲得すべき経営資源

人的資源	中心となる人、コミュニティ関係者・ボランティア・スタッフ
物的資源	場所、備品（パソコン、机、椅子）
財務的資源	運営資金（使用料、通信費、消耗品費等、飲食費等）
情動的資源	各地域のイベント・行事・生涯学習の情報、各コミュニティ、行政との連携、各種メディア（FMさつませんだい、新聞、市広報誌等）の活用

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	人的資源としてのメンバーの掘り起し。
他の組織やグループとの関係	各コミュニティ
特定の個人（特に専門能力を有する人）	生涯学習インストラクター、観光ボランティア
対行政	薩摩川内市生涯学習推進本部、薩摩川内市（文化課、社会教育課、コミュニティ課等）